

新人を対象とした服薬サポート勉強会の成果

【氏名・所属】 笹本千香子(第二女子医大通り店)
石塚ひろ美(河田町店)

【目的】

例年、第一ブロック女子医大エリアには、各店舗に必ず新入社員が配属されている。新入社員が、薬剤師として最も重要な業務の一つである服薬サポート業務にスムーズに入っていける為のシミュレーションと、店舗でよく受ける処方せんの内容について予め学ぶ為の処方解析とを兼ね、エリア全体で新人の業務習得をフォローしていくという目的で平成18年から現在に至るまで継続的に勉強会を行っている。過去3年間の取り組み内容とその成果、今後の課題について発表を行う。

【方法】

月に一度、土曜日の午後の業務時間のうち90分間を利用して、一つの疾患について複数パターン用意した模擬処方せんにより服薬サポートロールプレイングを行う。一疾患で一人の新人担当者を決め、決められた発表の日までに模擬処方せんの作成、薬の準備、投薬に際してのポイントの設定を行い、解説を準備する。当日は投薬ポイントに沿った形で担当者が患者役を演じる。発表の日までに少なくとも一度は新人、PC、勉強会のスタッフ数名にて内容についての打ち合わせを行う。

『1年目～4年目までの年別の取り組み』

- 1年目…勉強会の確立、女子医大エリア新人スタッフとPCの参加
- 2年目…宿題の作成と実施、他エリアへの参加の呼びかけ等勉強会の活性化
- 3年目…他エリアからも全ての新人が参加、サポート役の引き継ぎ開始
- 4年目…参加者に事前にアンケートを実施、取り上げて欲しい疾患の中から内容決定

【結果】

新人が主体となって自ら学び、発表する場を設けることにより、学習に対するモチベーションが上がり、同期同士のコミュニケーションを図ることができるだけでなく、PC、他店舗のスタッフとも交流を持つことができる。更に、勉強会に参加していないスタッフも資料を通じて内容を学ぶことができた。毎年全日程終了後にアンケートを実施しているが、今後も継続して欲しいという意見が現在のところ参加した全員から得られている。年を追うごとに勉強会に関わったスタッフが増加している為、意見を広く取り入れられるような環境ができた。

【考察】

新人の頑張りが各店で業務に反映されていることは大きな成果である。更に年々、周りのスタッフの理解が得られてきていることを感じている。他エリアにもこの勉強会の存在を知ってもらい、多くの人々が勉強会に関わることで異なるエリアのスタッフ同士の交流を図ることができた。これは勉強会立ち上げ当初は予想していなかった成果である。